

総合型地域スポーツクラブの運営に関する研究
—住民参加の自主運営に着目して—
Research on management of comprehensive community sports club
as specified voluntary management of residents

1K03B007-1 浅見倫成

指導教員 主査 堀野博幸 先生 副査 作野誠一 先生

I. 序論

2000年9月に文部科学省（当時の文部省）から出された「スポーツ振興基本計画」において「2010年（平成22年）までに、全国の各市区町村において少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを育成する」という目標が設定された。それによってクラブ創設の機運は徐々に高まってきたはいるのだが、実際の運営は必ずしも理想どおりにうまくいっているとは限らない。総合型クラブが抱える問題はさまざまであり、短期間で簡単に解決できる問題でもないように思える。

そこで今回の調査では、全国のクラブにおける運営状況はいかなるものか、どういった問題点を抱えているクラブが多く存在するかを把握し、「自主運営（住民参加型運営）」という一つのキーワードに着目することによって明確な問題点や改善すべき点を見出していきたい。

II. 調査方法

1. 概要

全国の総合型クラブのマネジャー等、運営の中心となっている人物を対象に、Eメールもしくは郵送により質問紙調査を行う。

2. 調査期間

平成18年10月2日～11月15日

III. 調査内容

①クラブの概要

・所在地 ・設立年度 ・会員数 ・母体組織

②住民参加型運営に対する意識について

- ・住民参加型運営が求められていることを知っているか
- ・住民参加型の運営形態を目指しているか

③住民参加型運営の現状

・住民参加型運営はどの程度成り立っているのか

④工夫と成果

・住民参加型運営達成のために現在クラブでおこなっていることは何か

・その中で成果が見られる項目はどれか

・どういった効果が見られるのか

⑤今後の展開について

・この先、住民参加型運営達成のために行いたいと考えていることは何か

IV. 調査結果の分析

1. 「クラブの概要」について

全国各地から満遍なく、さまざまな特徴を持ったクラブからの回答を得ることができた。

2. 「住民参加型運営に対する意識」について

総合型クラブのリーダーレベルにおいては住民参加型運営に関する知識、意欲がかなり広まっているようだ。

3. 「住民参加型運営の現状」について

住民参加型運営を目指してはいてもなかなかうまくいっているクラブが少ないのが現状のようだ。特に行政主導のクラブでは行政離れがあまり進んでおらず、住民参加型運営が達成していないクラブが多いと言える。また、住民参加型経営の達成具合は会員数の多少と相関関係にあることが明らかになった。

4. 「工夫と成果」について

それぞれのクラブがさまざまな取り組みを行っており、状況に応じて工夫した活動が効果を上げている。

5. 「今後の展開」について

回答は主に「運営資金の獲得」「他組織との連携」「イベント、プログラムの充実」「情報提供」4種類に大別される。

V. 考察

それぞれのクラブが置かれている状況に応じた方法、それぞれの強みを生かした方法を探ってそれを進めていくことが、住民参加型運営の成功への近道になってくるだろう。長期的な視野をもってそれを継続的に活動していくことも重要である。また、会員に運営側を経験してもらうことが必要だと考える。経験することで責任感が生まれてくるなどといった意識改革の効果も期待できるだろう。

また、それぞれのクラブがその地域の特色を受け継ぎ、地域の象徴的な存在になることで、地域住民の理解も深まり、積極的に運営に参加してくるであろう。